

人間文化学部  
**地域文化学科**  
Department of REGIONAL STUDIES



地域の現場に出なければわからないこともたくさん。人とのつながり方を学ぶことで、世界が広がる。

私はもともと、歴史や昔の生活にまつわる本を読むのが好きで、大学では自分が育った滋賀県の人々の暮らしそのものや、その中で育まれてきた文化を学びたいと思い、この地域文化学科を選びました。入学後は滋賀県内各地の文化財の見学や調査にも参加しています。フィールドに出て、本やネットでは分からないことを知ることができるのも県大の魅力の一つです。たくさんもの、人に触れることで知識の幅は広がり、自身の成長に繋がっていくのだと思います。是非県大で好きなこと、知りたいと思うことを見つけて共に学びましょう。4月に待っています！

人間文化学部 地域文化学科 3年生  
奥田 日和 さん/私立比叡山高等学校出身

地域社会の歴史と文化を学び、  
未来の地域社会を拓く人材を育てる。

◎アドミッションポリシー

地域文化学科では、日本、特に近江の歴史・文化・社会、およびアジアとの交流に強い関心をもちながら自ら行動し、社会貢献の一環として学んだことを地域に還元し、科学的な目で地域を見つめてこれからの地域のありかたを探求する意欲を持ち、問題解決能力をもって独創的な発想ができる人材を養成します。この教育目標を達成するために、次のような学生を求めます。

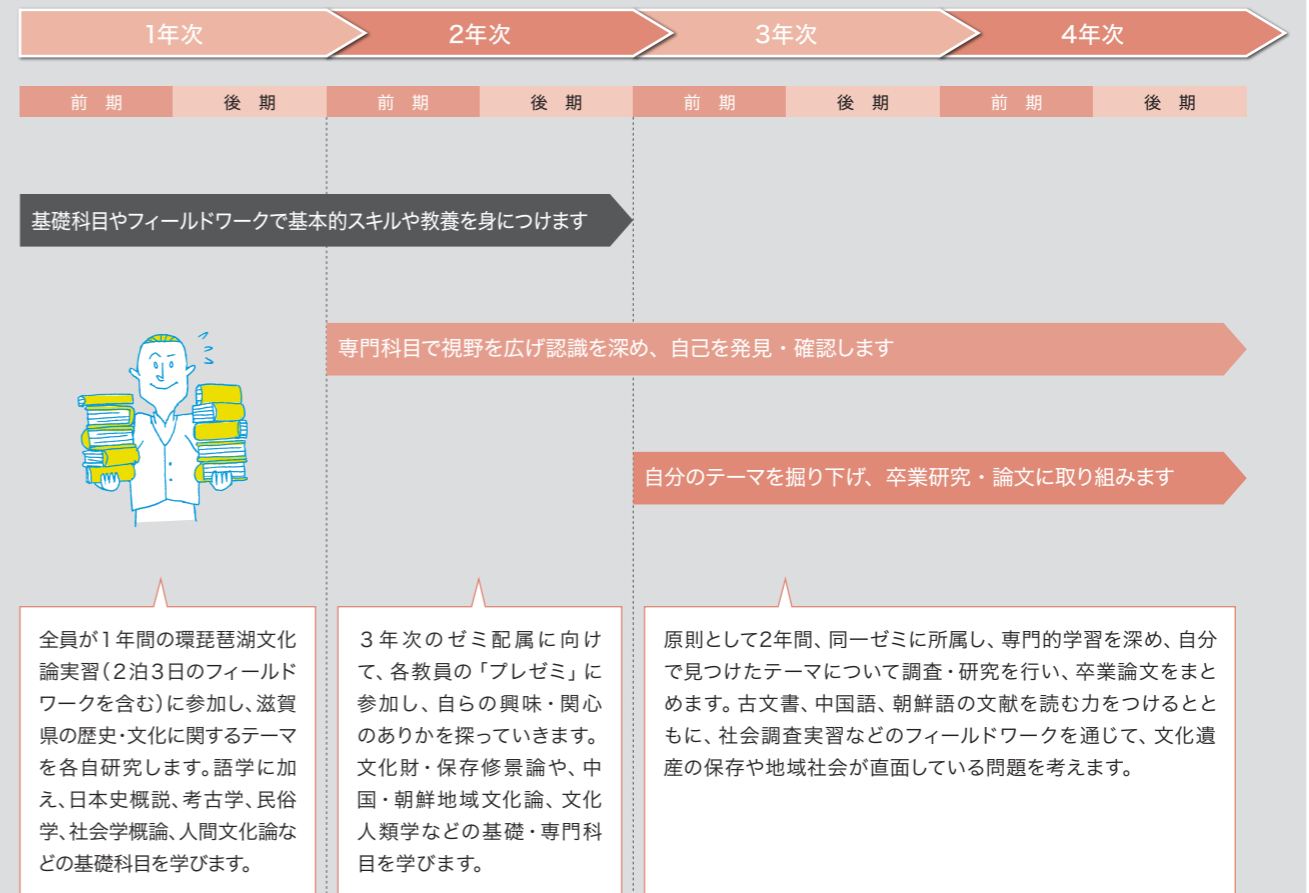
求める学生像

- ① 地域社会の過去と現在の諸問題を学ぶために必要な基礎学力を有する人(知識・理解)
- ② 歴史・文化・社会に強い関心を持ち、自ら学ぶ強い意欲をもつ人(関心・意欲)
- ③ ローカルな問題からグローバルな問題まで広い関心を持ち、多様な人々と交流できる人(協働性)

◎学びのポイント

現代のような情報化社会において、かえって重要になってくるのは、現実の対象と向かいあって考えることです。地域文化学科では、1年次、2年次において、様々な対象に切り込み、分析し、表現するための学問的方法の習得を目指します。3年次からは少人数のゼミに配属され、各教員の指導のもと、あるテーマに対して学生自身が実際にその方法を適用し、卒業論文を仕上げしていきます。地域文化学科において教員が研究しているテーマは多様です。時代でいえば古代から現代まで、地域でいえば滋賀県から中国・朝鮮にまでそのフィールドは広がります。学生諸君には何よりも自ら興味をもち、積極的に現実の対象に立ち向かってもらいたいと思います。その経験は、大学卒業後の仕事や生活においても大いに力になるはずですよ。

◎学びのステップ〈4年間の学習フロー〉



<p>Point 1 ゼミ形式の演習</p> <p>少人数教育によって学生と教員の間、学生と学生との間に密接な交流が生まれます。</p>	<p>Point 2 「地域」での実習</p> <p>近江から朝鮮半島、中国大陸へ、人と文化を求めてフィールドワークに出かけます。</p>	<p>Point 3 多様な学問方法</p> <p>歴史学、考古学、民俗学、建築学、社会学、地理学、美術史、文化人類学など、「地域」との対話を求めて、さまざまな視点と手法を習得します。</p>
--	---	--





人間文化学部  
地域文化学科  
市川 秀之 教授

## 地域文化学科 ってこんなところ

地域文化学科では、私たちの生活する「地域」を、歴史学や考古学と、社会学や地理学などから学びます。さらに歴史遺産を未来に伝える方法を学びます。最大の特徴はフィールドワークで学べることです。文書調査、発掘調査、祭礼調査によって学びの世界は大きく広がります。



環琵琶湖文化論実習  
米原醒ヶ井の集落を歩く

### 〈専門科目の例〉 講義

#### 歴史的地域論

地域社会の基礎となる家や村・町が、どのように生まれ、どのような役割を果たし、変化していくのかを、古代から近代を通してさまざまな視点から考えます。

#### 民俗学

普通の人の普通の暮らしが民俗です。さまざまな祭りや伝承が残る、民俗の宝庫といわれる近江を舞台に、民俗とそれを支える社会のしくみを解明していきます。

#### 考古学

考古学の基礎を学び、具体的な遺跡や遺物を通して、人類の歩んできた歴史を分析し、文化交流や生活の発展過程を検証します。

#### 日本社会論

近現代の日本において、階層・ジェンダー・エスニシティの面で差別を受け、また排除されてきた人々の視点を通して、「日本社会」を見直します。

#### 文化財情報論

専用ソフトを用いた演習も行いながら、文化財の現場で一般的となってきたコンピュータによる3次元モデル・アニメーションの作成・活用について学びます。

#### 中国地域文化論

中国文化の基礎をなす世界観を知り、多様な民族の暮らしや今中国で起こっている文化をめぐる問題について学びます。

### ◎研究分野とスタッフ

#### ◇日本史系

**人間や地域社会のあり方を、歴史を通して考える**  
古代から近代までのさまざまな時代に生きた人間や社会、文化のあり方を研究します。近江をはじめ、多様な地域社会の実態に迫る日本地域史や、絵画・仏像などの作品を素材とする日本美術史、女性に焦点をあてたジェンダー史などを対象に、古文書や古記録、美術品の調査や聞き取り調査など、現地に即したフィールドワークも取り入れながら、多面的に歴史研究を進めています。  
(水野 章二教授、京楽 真帆子教授、亀井 若菜准教授、東 幸代准教授)

#### ◇文化交流系

**日本と中国大陸・朝鮮半島との文化交流の歴史と現代を考える**  
古代から現代にいたるまで、日本と中国・朝鮮半島は、政治経済的、文化的に深く影響しあってきました。長期的な広い視野をもって東アジアの交流史を学ぶことで、いま私たちが持っている歴史認識を捉えなおし、21世紀の東アジアの国際関係を考えます。朝鮮三国時代と日本との交流(歴史学・東アジア考古学)と、中国および東南アジアの中国系移民社会(文化人類学)について研究しています。  
(田中 俊明教授、定森 秀夫教授、横田 祥子助教)

#### ◇地域遺産系

**地域遺産を記録し、その保存や活用に取り組む**  
国宝・重要文化財の数が全国第4位である滋賀県は文化財の宝庫であり、文化財指定を受けていないものも含めると、実に多くの地域遺産にあふれている場所です。地域遺産系では、滋賀県を主なフィールドとしながら、日本ならびに世界の地域遺産を、持続可能な状況で後世に残し活用するための方法を学びます。  
(濱崎 一志教授、中井 均教授、市川 秀之教授、石川 慎治准教授)

#### ◇現代社会系

**近現代日本における地域社会を多面的に考える**  
社会学分野と地理学分野からなります。社会学分野では、インタビュー調査を駆使するフィールドワークを行い、祭・芸能・アートといった文化、地域をつなぐメディア、観光、まちづくりなどの観点から、地域社会の様相を研究しています。地理学分野では、人口動態、各種産業、都市問題、生活文化などに関する様々なデータをコンピュータで地図化し、これらの地域的特徴やその背後にある要因について研究しています。  
(塚本 礼仁准教授、武田 俊輔講師)

### 1日のスケジュール

- 8:50 通学
- 9:00 1限:英語Speaking & Listening
- 10:40 2限:現代中国論
- 12:10 政所茶レン茶(近江楽園)ミーティング
- 13:30 昼休み
- 14:50 4限:文化社会学
- 16:30 下校
- 18:00 アルバイト
- 22:00 自宅着



### CAMPUS LIFE ONE DAY 県大生の一日



美術史実習  
美術史実習では、美術作品の見学に彦根や京都の博物館・美術館に行きます。彦根の仏壇店も訪れました。



『大学の滋賀ガイド』と『長浜曳山まつりの舞台裏』  
『大学の滋賀ガイド』、『苗村神社三十三周年式年大祭調査報告書』、『世代をつなぐ龍王の祭り 苗村神社三十三周年大祭』を刊行



地域社会調査実習  
インタビューや参与観察、アンケートを通して、地域社会の現状と課題を探ります。



中国文人類学実習旅行  
中国の文人類学実習旅行で、四川省カンゼチベット族自治州にて



古民家の保存活用実習  
伝統的建造物の調査とその保存計画の策定や古民家の再生を行っています。



地理学実習  
デジタルマッピング(コンピュータによる地図作製)の技術を身につけていきます。



古文書演習Ⅱ  
地域に残る古文書の現物に触れ、その調査・読解を通して、歴史の展開を学びます。



考古学実習  
発掘調査に必要な測量、写真撮影、遺物実測、拓本などを行います。

### ◎進路状況(2014~2016年度卒業生)

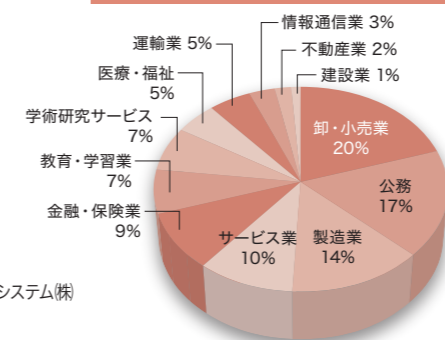
#### ◆就職先

- 関東信越国税局
- 東京国税局
- 金沢国税局
- 富山県教育委員会
- 滋賀県教育委員会
- 茨木市教育委員会
- 滋賀県警察
- 大阪府
- 大津市
- 岐阜県
- 京都市
- 甲賀市
- 滋賀県
- 多賀町
- 奈良市
- 羽曳野市
- 浜松市
- 福知山市
- 米原市
- 三鷹市
- 三原市
- 京都府
- 近江八幡市
- 長浜市
- 長浜市立西中学校
- 東海運(株)
- アバ(株)
- エース証券(株)
- (株)金沢芸術創造財団
- 株西アーバン銀行
- 京セラコミュニケーションシステム(株)
- 京都信用金庫
- JAグリーン近江

#### ◆進学先

- 滋賀交通(株)
- ㈱十六銀行
- THK(株)
- 日本通運(株)
- ㈱パローホールディングス
- 東日本旅客鉄道(株)
- ヤンマー(株)
- 滋賀県信用組合
- ㈱三重銀行
- 日本郵便(株)
- 象印マホービン(株)
- ㈱ロック・フィールド
- ㈱カインズ
- 滋賀県立大学大学院
- 岐阜大学大学院
- 九州大学大学院

### 2014~2016年度卒業生の業種別就職状況



### OB & OG Message

2011年度卒業  
勤務先:彦根市役所  
船田(宮嶋) 美由さん



私は大学でジェンダー史を専攻し、大正・昭和初期の時代に仕事と家事・育児を両立させる女性たちについての研究をしました。研究を進めていくなかで、当時も現代も結婚や出産で離れざるをえない女性が多いことを知りました。働き続けたいのに働くことができない女性が多い状況を何とかできないだろうかと思え、行政の仕事に興味を持つようになりました。  
昨年出産し、現在は育児休暇中ですが、彦根市役所では市民課で1年、広報係で3年勤務しました。市民課は窓口対応が主で戸籍や住民票を扱う仕事をしていました。市民の方と接する機会が多く、いろいろな相談にのることもたくさんありました。広報係では、広報誌を作ったり、ホームページを更新したりする仕事をしていました。広報誌で男女共同参画をテーマに、管理職に就く女性や、育児を頑張る男性についての特集を作ったこともあり、大学で学んだことをうまく仕事に活かすことができたのではないかと思います。  
また、これから自分自身が仕事と家事・育児を両立させていくために、大学で研究していたことが役に立つのではないかと考えています。  
(2017年3月現在)

※すべての資格は、大学が定める所定の科目を履修し、単位を修得する必要があります。